

業界屈指のCROへ再出発

新薬リサーチの子会社に

安評センターは4月、トランスジェニックスグループ「新薬リサーチセンター」の傘下に加わり、新たなスタートを切った。今後は、トランスジェニックスグループの探索基礎研究から、非臨床試験、臨床試験、病理診断までを網羅した医薬品開発のワンストップ受託体制を生かし、安評センターとして非臨床試験の受託拡大を目指す。水橋福太郎研究本部長

安評センター

トランスジェニックス 食品関連物質、工業化学は、公益財団法人食品農 物質などの安全性評価に医薬品安全性評価セン 関する試験受託事業を譲ターから医薬品や農薬、 受した。北海道と神戸に

は、癌原性試験を中心に多くの受託実績を誇っていた2000年水準の社員数や受託数を目標に挙げ、「われわれが強みとする遺伝毒性試験に、新薬リサーチセンターが持つ分析や薬効薬理試験でのノウハウを融合し、将来的には安評センターとしてできる試験を増やしていきたい」と話している。

ラボを置く非臨床試験CROの新薬リサーチセンターの100%子会社「安評センター」として事業を開始している。薬効薬理試験に強い新薬リサーチセンターと、G



水橋氏

安評センターは、静岡県磐田市を拠点に、設立から40年の歴史を持つ。2000年頃までは従業員100人を超え、業界屈指の受託量を誇っていた。特に「癌原性試験といえは安評センター」という評価を得ていたが、その当時に起きた問題と受託環境の変化により、医薬品を中心に受注量が減少し、従業員数は約70人まで少なくなっていた。

グループの一貫受託体制で製薬企業からの案件獲得を目指し、現状を打破するきっかけにしたいと考えた。中でも強みは遺伝毒性試験で、受託した試験全体の半数を占める。水橋氏は、「競合企業が出てきたとしても、圧倒的な技術力とこれまで蓄積してきた豊富な背景

の実施が必要不可欠であるため、強化は必須という考えだ。「特に分析を強化することが医薬品開発を受託する上で重要課題。経験を持った人材を獲得していきたい」と述べ、いずれは医薬品企業からの受託を伸ばすぞという意気込みがみえる。

一方、非臨床試験に用いる動物種では、イヌ・ブタに対応し、新薬リサーチセンターの神戸ラボで実施可能なサル試験を併せれば、大動物の非臨床試験を行える環境が整った。さらに疾患モデルについても、トランスジェニックスが作製したモデルマウスを評価系として使っていく選択肢も取れるようになり、グループ内での相乗効果も創出していく。